東北大学実践宗教学寄附講座主催

臨床宗教師研修

「臨床宗教師」とは、医療機関や福祉施設などで公共的な役割を果たす宗教者です。日本版チャプレン(chaplain)を意味する言葉として考えられました。

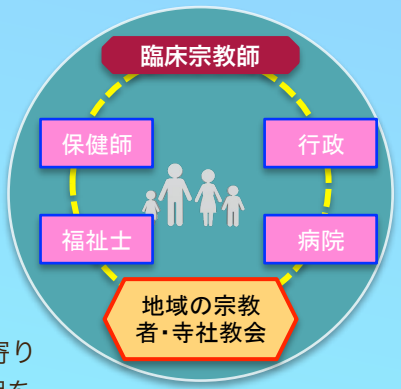
臨床宗教師は心のケアに関わる専門職として地域の支援者の輪に加わります。

被災地で

仮設住宅の自治会や民生委員、保健師、社会福祉士といった方々と連携し、地域の宗教文化の特性をいかしながら傾聴活動を行ないます。地域の宗教者とも連絡をとりながら、身内を亡くされた方などへの宗教的ケアが適切に行き届くようにします。

病院で

病気や死の不安を抱える患者さんやご家族の言葉に耳を傾け、適切な看取りの環境作りを助けます。また患者さんを支える看護スタッフのストレス軽減にも貢献します。



介護・福祉施設で

日本は超高齢化社会を迎え、施設に暮らす身寄りのないお年寄りが増えています。安らかな最期を迎える準備をお手伝いし、お葬式やお墓についての相談にも乗ります。

「戦後の日本では、宗教や死生観について語り、この暗闇に降りていく道しるべを示すことのできる専門家が死の現場からいなくなってしまいました。人が死に向かい合う現場に医療者とチームを組んで入れる、日本人の宗教性にふさわしい日本型チャプレンのような宗教者が必要であろうと考えてきました。」 医師・岡部健(1950-2012)

実践宗教学寄附講座

980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1　東北大学文学研究科内
022-795-3831(T/F)
E-mail: j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp
http://www.sal.tohoku.ac.jp/p-religion/top.html

東北大学

臨床宗教師研修の目標と内容

宗派・宗教を超えた宗教者が集い、対話を通して学びあい、心のケアの方法を身につけます。

①「傾聴」「スピリチュアルケア」の能力向上

被災地や医療施設でまず必要なのは、教え導くことではなく、相手の気持ちに寄り添って耳を傾けることです。ロールプレイなどのグループワークを通して傾聴のスキルを身につけます。自分の中にある答えに気づいてもらうのがスピリチュアルケアです。

②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上

公共空間では宗教の異なる人・信仰を持たない人との対話が前提となります。他(多)宗教の信仰者と触れ合い、儀礼に学ぶことで自分の信仰を自覚し、深めることにもつながります。宗教協力は、布教を目的とせずに人々と接することを学ぶ第一歩です。研修受講者が持ち回りで担当する「日常儀礼」、宗派宗教の枠を超えて行なう「行脚」は貴重な体験となります。

③宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ

病院などの公共施設は宗教者のホームグラウンドではありません。適切な手続きを踏まえてTPOに応じた振る舞いができなければ敷地に入ることすらできません。公的施設の運営者や異業種の専門家から学び、仮設住宅やビハーラ病棟などで実習を行ないます。

④適切な「宗教的ケア」の方法を学ぶ

さまざまな支援者がいる中で、宗教者ならではのメリットとはなんでしょうか。読経・祈り・お祓いなどの行為や、数珠・ロザリオ・お守り・お札・お地蔵さんなどの物品など、それぞれの宗教は心のケアに役立つ工夫や知恵を持っています。これらを相手のニーズにあわせて、公共の場にふさわしい方法で提供することを学びます。

研修プログラム例（長期・分散型）講義22時間、グループワーク28時間、実習24時間、他

	班	伊達	青葉	日高見	浪花	越州
	定員	2～3名	2～3名	2～3名	3～4名	3～6名
	実習先	岡部医院、カフェデモンク、放射能計測所	岡部医院、電話相談、放射能計測所	岡部医院、電話相談、カフェデモンク	シェアハウス中井（ビハーラ21）	長岡西病院ビハーラ病棟
4月15日～16日	全体会1（開講）	開講、オリエンテーション、講義（理念、倫理、会話記録、カフェ、放射能）、グループワーク（日常儀礼、悲嘆）				
4～5月	実習期間1	カフェ（4h）、放射能（4h）	電話（4h）、放射能（4h）	電話（4h）、カフェ（4h）	ハウス（8h）	長岡（8h）
5月13日～14日	全体会2	講義（現代宗教論、宗教的ケア、グリーフケア、ホスピスケア、在宅ケア）、グループワーク（日常儀礼、実習振り返り、ロールプレイ）				
5～6月	実習期間2	岡部（8h）	電話、放射能	電話、カフェ	ハウス	長岡
6月17日～18日	全体会3	講義（公共性、人権擁護、宗教間対話、被災者支援）、グループワーク（日常儀礼、実習振り返り、会話記録）				
6～7月	実習期間3	カフェ、放射能	岡部	岡部	ハウス	長岡
7月22日～23日	全体会4（修了）	グループワーク（日常儀礼、実習振り返り、会話記録）、修了式				

講義科目例

臨床宗教師の倫理	宗教間対話	現代宗教論	在宅緩和ケア
スピリチュアルケア	宗教的ケア	グリーフケア	あいまいな喪失
精神保健と医療	公共性の確保	地域と文化	人権擁護

〈主な実習先〉

・**岡部医院：**故岡部健医師が設立した医療法人社団爽秋会による在宅緩和ケアの専門機関。岡部医院スタッフの訪問活動に同伴し、がん患者の療養生活の場を見学。

・**Café de Monk(カフェ・デ・モンク)：**僧侶・牧師などが協力して運営している傾聴移動喫茶。石巻市など三陸海岸を中心に、仮設住宅の集会所で傾聴活動を続けている。

・**仙台食品放射能計測所：**仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク(東北ヘルプ)の運営により食品などの放射能計測を行う。不安を抱える計測依頼者の傾聴を行なう。

・**電話相談：**牧師、僧侶、神職などによる電話相談窓口。「心の相談室」が運営する。

・**シェアハウス中井：**NPO法人ビハーラ21の僧侶、神職、介護職などが協力して、身寄りのない高齢者や精神障害者などが終の棲家として生活する場を提供している。 大阪市平野区

・**長岡西病院ビハーラ病棟：**医療法人崇徳会が運営する仏教系緩和ケア病棟。常勤ビハーラ僧の他に、十数名の地元の僧侶がボランティアとして関わる(超宗派)。新潟県長岡市。

・**行脚：**慰霊・鎮魂・追悼のために、祈り、読経をしながら被災地を歩く。